

令和8年度 第2回衛生委員会 議事録

愛知県シルバー人材センター連合会武豊町事務所

日時 令和8年7月3日（金）11:00～12:00		場所 武豊町シルバー人材センター 2階会議室	
出席者	委員長・竹内誠一（事務所長） 衛生管理者・藤井徳充 産業医・中野里香 派遣会員・岩井辰夫、小坂友二、佐藤時子		
欠席者	なし		
今月のテーマ「熱中症を防止する」			
議事内容	（１）熱中症の原因、症状、発生件数の推移 平成１１年、それまで、熱失神、熱痙攣、熱疲労、熱射病などと表現されていたものが「熱中症」と統一された。 熱中症の症状は、失神、大量の発汗、筋肉痛、頭痛、嘔吐、意識障害、痙攣、小脳失調、高体温等がある。高齢者は熱中症のリスクが高い。２０００年代後半から熱中症による死亡者数増加。職場における熱中症の死傷者数は、２０１８年から減少。		
	（２）派遣事業での熱中症事故事例 令和４年８月、作業中に気を失って階段から落下し、救急車で病院に運ばれ、熱中症と診断された。大変に暑い日だったが、その会員は前日にコロナウイルスのワクチン接種を受けた。そのため体調不良だったかもしれない。		
	令和５年７月、宿直作業を終えて帰宅のため自家用車に入りエンジンをかけたところ気を失い、病院で熱中症と診断された。作業場は冷房が効いていたが、急に暑い車内に入ったために血圧が一気に降下したらしい。暑い日は、クルマのドアを全開にして風を入れ替えてから、エンジンをかけて冷房を入れ、それから入ることが大切。		
	（３）熱中症防止対策について もし、職場で熱中症らしい様子が見られたら、救急車が到着するまでに体に水をかけるなどの急速冷却が必要。一人で冷房車内に放置するなどは危険。		
	仕事前日には、十分な睡眠、食事が必要。作業中にはこまめな水分補給が必要。 暑熱順化（暑さになれる）ための軽い運動が有効。		
産業医からの提言	熱中症防止のためには１日当たり２リットルの水分が必要。１回の食事でも２００ミリリットル吸収できる。水を飲みづらい職場の雰囲気だとしたら、その職場がおかしい。ペットボトルの水を飲まなければならない。 一つずつ年をとるので、去年までは大丈夫だったとしても、今年はわからない。 これから職場を欠勤した理由が何なのか調べるとよい。健康障害なのか、メンタルのせいなのか。冬になると感染症が増えるので情報を共有するとよい。		
次回開催予定 ８月７日(金)１１：００～１２：００			